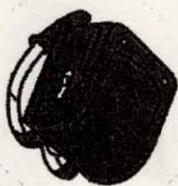


おためし

療育ってなあに？

～幼児期から学齢期へ～



目次

はじめに

P 1

あらためて 療育ってなんだろう？

P 2

イメージを共有しましょう

幼児期と学齢期はどう違うの？

P 3

3つの視点からみてみましょう

【1】発達のスナップの視点から

【2】療育の考え方の視点から

【3】サービスの違いの視点から

押来をみすえて

P 5

ながい目でみた療育について

わが子に合ったサービス、どう選ぶ？

P 7

【1】 考えかたのヒント

【2】 イメージをふくらませてみましょう

【3】 まとめ

おわりに

P 10



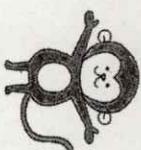
イラスト：「かわいいイラストデザイン」ひかりのくに
「イラストコレクションカタログ」Gakken

こんにちは療育相談班です。

このリーフレットは、お子さんが小学校に就学されるにあたって、学齢期の療育について知りたいと考えていらっしゃる保護者の方々に向けて、作らせていただきました。

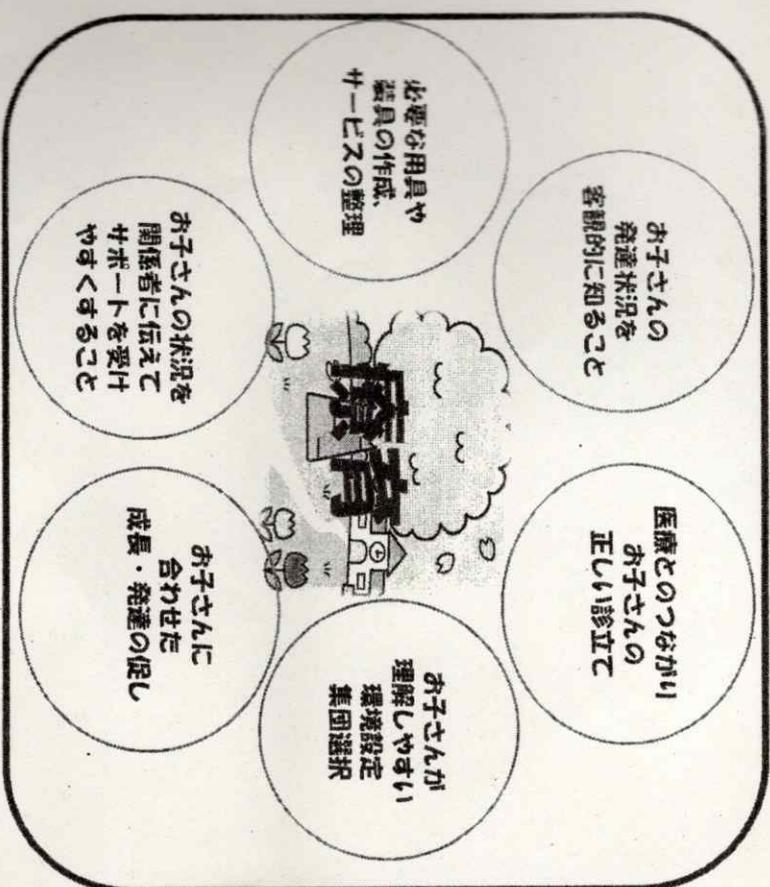
幼児期から療育に取り組んでこられた方へは、これまでのおさらいの意味も含めて、お子さんの「いま」に合わせた「ちようどよい」サービズを利用していただけるための一助となればと考え作成しました。

さあ、なかみをみていきましょう！



あらためて 療育ってなんだろう？

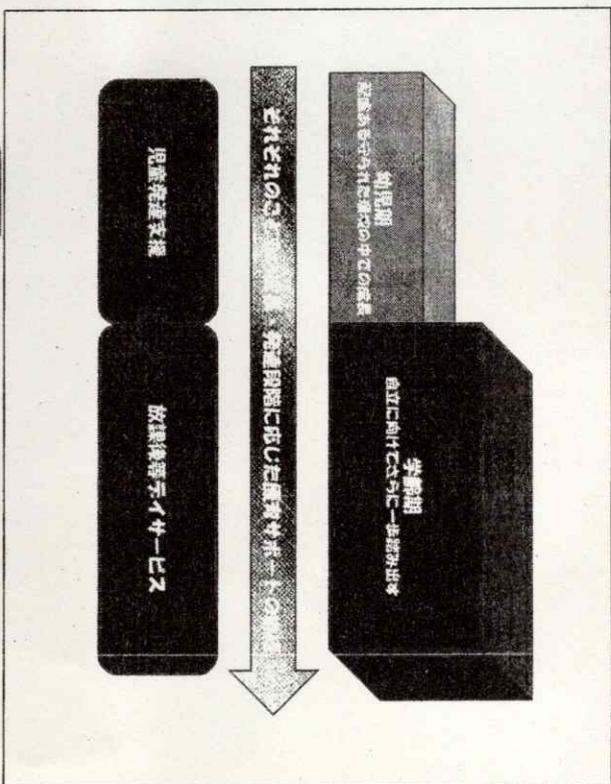
イメージを共有しましょう



『療育』とは、上の図にあるような、お子さんを色々な面から支える、様々な取り組み全体のことを言います。幼児期においても学齢期においても、この考え方は共通しています。

幼児期と学齢期どこが違うの？

3つの視点からみてみましょう



1 発達のスナップの視点から

幼児期は、まわりの大人に支えられながら、安心して過ごせたり、認められることの喜びを知ったり、達成感を味わったり、配慮ある守られた環境の中での成長が中心だったかと思えます。学齢期になると、自立に向けてさらに一歩踏み出す時期を迎えます。工夫や配慮がある中で、『自分でできた』という体験を積み、自分への自信を育んでいくことが大切になってきます。

幼児期と学齢期はどう違うの？

2 療育の考え方の視点から

1の内容のように、取り組むべき課題自体は変化してくるとは思いません。ただ、それぞれのお子さんの、個々の成長や発達段階に応じたサポートを継続していくという、根っここのころの考え方は幼児期も学齢期も変わりません。

3 サービスの違いの視点から

取り組みの課題が変わったことで、利用するサービスが変わってきます。幼児期のお子さんのために用意されている『児童発達支援』から、学齢期のお子さんを対象とする『放課後等デイサービス』へのパトナタッチが行われます。『学齢期へとステップアップした新たな課題に対応できる場』
そして
『幼児期からの療育の考え方をしっかりと引き継いでサポートしてもらえる場』
へのパトナタッチです。

将来をみすえて

ながい目で見た療育について

3つの視点から、幼児期と学齢期とを見くらべてみたところで、今度は、もう少し長い目でみたお子さんの成長をイメージしてみましょう。

次のページの表のように、これまで取り組んできたこと、今から取り組もうとしていることは、お子さんの将来の自立へとつながっていきます。

取り組み課題は成長とともに変化していきます。
もちろんお子さんお子さんによってそのペースや、必要なことは違ってきます。

そのような中で共通して言えることは、今積み重ねていることが、次の時期に活かされ、また更に積み重ねたことが次の時期に活かされる。

今取り組んでいることが、将来の力になってくるということです。

お子さんが、望ましいプラスの感情をたくさん感じながら成長していけるよう、周りにサポーターを増やしながらか支えていきましょう。



将来をみすえて

長期目標は人への信頼と自分への信頼の獲得

こどものころの発達の一側

	こころの発達	抱きがちなマイナス感情	望ましいプラス感情	プラス感情を得るために必要な体験
小学生～ 中学生	・社会の中の自分をイメージする	・自分はだめだ ・社会が悪い	・得意不得意のある自分と上手につきあっている自分 ・人との関わりを大切にしながら自分に合った方向性をかっつけていこう	・人への信頼と自分への信頼を持って 社会へ！！ 
小学生 中学生～ 小学生	・自分や周囲の人はじめ ・自分とはどう違うところがある人か ・関わりあう	・どうせ自分に はできない ・誰かわかって くれない	・自分には苦手なこと「も」ある ・自分にあつた工夫をする ・取り組めやすくなる ・気の合う友人がいる	・自分で乗り越えられたという体験 ・他者からがんばっている自分を認められ見守ってもらえた体験 ・仲間を得る体験
小学生 中学生 小学生	・集団の中で自分や 周囲の	・あの手はで きない ・自分ではでき ない	・少し助けてもら える ・工夫を教えるも らえる ・苦手なこともあるが 集団の一員として 大事にされている (集団への所属感)	・理解してもらえた体験 ・工夫することを教えてもら えた体験 ・仲間意識を持つ体験
幼児期	・大人との関わりの中 で自分を認める	・いやだ ・できない	・認められてうれ しい ・ほく(私)にも できる ・安心	・認めってもらえた体験 ・わかってもらえた体験 ・うまくいかない不安に寄り添ってもらえた体験 ・達成できたと感じる体験

わが子に合ったサービス、どう選ぶ？

【1】考え方のヒント

さて、ここまで、年齢を重ねる中での変化や、その時期に応じた継続的な取り組みの必要性についてみてきました。
ではいったい、学齢期には具体的にどんなサポートが必要になってくるのでしょうか？
まずは、環境の変化などについて、もう少し具体的にみていきましょう。

学習中心の集団生活へ

お子さんが学習の場で自己発揮していくことが大切になる時期です。また、時間割というきつちりした時間枠の中で生活していくことが求められるようになります。

放課後をどう過ごす？

学校と放課後と、オンとオフの使い分けやバランスが大切になってくる時期です。放課後の安心できる居場所の確保が大切になります。

やがて思春期に

自分らしく、「ぼくはこれをしてる時が一番楽しいんだ」「私はこの時間がとても大切」そんなことが感じられる時間を持てることも大切になってくる時期です。また、友達との関わりを持ち方も、成長に合わせて複雑に変化していきます。

このような変化を踏まえて、お子さんにとってどんなサポートがある
と過ごしやすくなりそうか、イメージしてみてください。

わが子に合ったサービス、どう選ぶ？

【2】イメージをふくらませてみましょう



うちのA太はなんとか頑張ってる
みんなについていけそうだけど、
放課後自分らしくリラック
スできるような場所が必要かも

うちのB君は、身体が強いけれど
勉強が苦手なところがあるから、
勉強のサポートが必要かも
勉強が得意な友達と一緒なら
いいかも



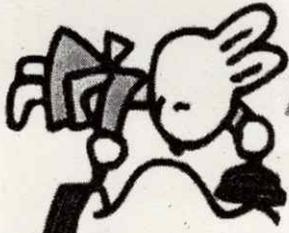
うちのC子は、お友達とのかわりを
少し人数で見てもらえると自信が
つくんじゃないかしら

うちのD介の場合、少し勉強
を見てもらえると自信が
つくんじゃないかしら

【3】まとめ

どんなサポートがどれくらいの量あると、いきいきとした生活が送れるかは、お子さんひとりひとり、違ってきます。

また、お子さんが成長してくると、必要なサポートの種類や量も変化していきます。

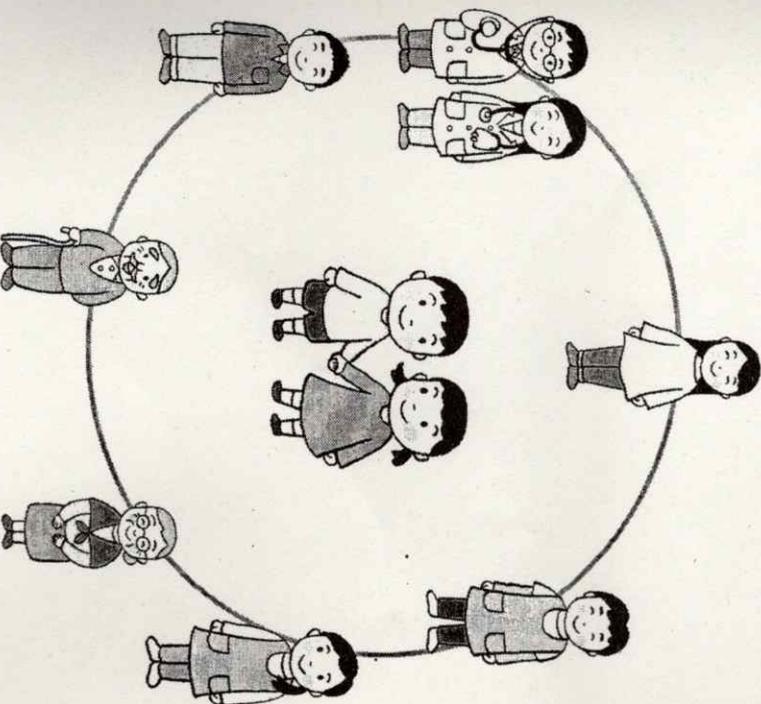


様々なサポーターの意見も取り入れながら、
「いま1のお子さんの状況に適した「ちようどうよい」
サポートをみつけていきましょう

『療育』は、様々なサポートを得て、周りの力を借りながら進めていく
取り組みです。

お子さんにとって理解しやすい工夫やヒントについてなど、
みつけた情報は宝物です。

身近な人にも知ってもらって、サポーターを増やしながらか前に進んでいき
ましょう。



相模原市南子育て支援センター 療育相談班
TEL042(701)7727

発行：令和3年7月